

授業改善推進プラン

小笠原村立母島小学校
校長 椎橋 秀行

(1) 今回の調査結果より

①生活行動アンケートの調査結果より

生活行動のアンケート結果によると、基本的な生活習慣を守ることは、おおむねできている。「朝食をきちんと食べている」「夕食をきちんと食べている」「朝は、時刻を決めて起きている」「夜は、時刻を決めて寝ている」等の質問項目の回答は、おおむね肯定的である。しかしこれらの項目については、学力調査の結果との相関があるとは言えない。

一方で、地域的環境による学習習慣の定着の難しさが見られる。「家では、勉強する場所を決めている」「勉強に図書館を利用している」「通信添削を利用して、勉強している」「家庭教師に来てもらって、勉強している」「学習塾に行って、勉強している」という質問項目において、肯定的な回答は総じて低い。学習環境、学習用具の不十分さが窺えるが、学校からの支援、指導を通して、家庭での学習習慣が定着するような手立てを講じる必要が急務と言える。

②学習活動の基本質問結果から

「授業のために予習をしている」「授業で習ったことは復習をしている」という質問項目の肯定的な回答は、どの教科でも低い。また、「〇〇で学習した知識を家の人(友達をふくむ)に話している」という項目をはじめ、学校で学習したことを家庭で話題にしたり、その知識を使って生活に生かしたりする項目も、総じて肯定的な意見が少ない。本校では「家庭学習のすすめ」という資料を年度初めに保護者に配布し、自主学習の取り組み方について示したり、宿題で保護者に協力をお願いしたりするようにしている。しかし、それらの取り組みがまだ定着しておらず、成果が結果に反映されていないと考えられる。

③学力調査の解答傾向から

全教科で共通する傾向として、記述問題の正答率が極端に低いことが分かった。国語科での記述問題や、算数科における立式の理由を説明するような問題である。全国の正答率も他の問題より低くなる傾向があるが、本校では低さが顕著である。理由として、基礎的・基本的な技能の定着が十分でなく、解答に時間がかかってしまい、記述式の問題まで手が回らないということ、あるいは、記述問題の解答方法が分からず、手つかずになってしまうことが考えられる。

(2)授業改善の取組について

令和3年度小笠原村の重点に対して

小笠原村の授業改善の取組の重点

授業UDと振り返り指導の徹底により「わかる」から「できる」授業を推進していく。

小笠原村において学力向上の重点として設定している授業UD、振り返り指導、家庭学習について(1)の結果などをふまえ、下記のように改善していく。

①授業UD

全ての児童にとって「わかる」から「できる」授業を実施するために、ICTを積極的に活用し、視覚的にわかりやすい授業を構成するようにしていく。また、児童の身近な興味や関心に訴えかけるような学習課題を設定し、児童が意欲的に学習に取り組めるようにするとともに、それらを家庭学習や家庭での話題に還元することができるようにする。

②家庭学習の内容

①の取り組みを踏まえて、児童が意欲的に取り組むことができる家庭学習の内容を設定していく。また、国語科における新出漢字、算数科における計算の技能などが確実に定着するよう、基礎的・基本的な内容の家庭学習を繰り返し行えるようにしていく。

③振り返りの指導

毎回の授業で、学習内容を振り返る時間を設定する。また、単元テストの振り返り活動を通して、各単元の学習内容を着実に定着できるようにしていく。

(3)本校独自の学力向上の取組について

①ベーシックタイムの実施

8:00～8:10の10分間、水曜日と金曜日に実施している。児童の実態に合わせて各担任が課題を設定し、問題演習などに取り組む。

②朝読書の時間の設定

ベーシックタイムや朝会・集会の時間以外の朝の時間は、朝読書を実施している。各学級で、児童一人一人が落ち着いて読書をする時間を確保する。朝読書を通して家庭での読書時間につなげ、ひいては一人で学習に取り組む時間の確保につなげていく。

③学習支援の教員の配置

算数の学習を中心に、支援の必要な学習单元やクラスには、T2として学習支援の教員を配置している。組織的に配置することにより、学力向上につなげるとともに、児童の実態を組織的に把握することにつなげていく。

④ホワイトボードの活用・タイマーの使用

今年度より各教室にホワイトボードを10枚、タイマーを各教室に1台用意した。ホワイトボードを使用し各授業で発表活動を多くすることにより、説明する力や表現する力の向上を目指している。

⑤校内研究の取組

母島小学校、母島中学校では2校合同で校内研究に取り組んでいる。今年度は『基礎学力向上のための、少人数指導の工夫』とし、副題として本校では「児童の読む力の育成を通して」に取り組んでいる。文章だけでなくグラフや図などの資料から正確に読み取る力を伸ばすことにより、学力向上・表現力の向上につなげていく。

(4)全体計画の進捗状況

①授業UD

- ・前面の黒板周りをすっきりとさせている。
- ・低学年では生活や学び方のきまりを定着させるためのわかりやすい掲示を工夫し、見通しをもって学校生活を送ったり、集中して学習に臨んだりできるようにしている。
- ・簡単な話型の掲示を提示することで、正しい話し方を身に付けさせ、自信をもって発表できるようにしている。
- ・授業1単位時間の流れを明確にし、めあてとまとめ、振り返りを連動させた主体的な学びのある授業を作っている。
- ・「めあて」「問題(学習課題)」「自己解決」「話し合い」「まとめ」「振り返り」など使用する語句を統一し、教室に貼り物を準拠している。※発達の段階に応じて多少の変更あり。

②家庭学習の内容

- ・年度当初の保護者会において「家庭学習のすすめ」を配布、説明し、保護者と連携して家庭学習の定着ができるようにしている。
- ・学年の実態に応じて、基礎的・基本的な内容の家庭学習を繰り返し行っている。
- ・今後、発達の段階に応じて、記述式の家庭学習や説明を要する家庭学習についても行っていく。

③振り返りの指導

- ・各学級において、時間を確保し、毎授業や単元ごとの振り返りを行っている。
- ・振り返りの記述内容については、教師が視点を提示し、児童が分かったことやできたこと、よくわからなかったところやもっと調べたいことなどを記入できるようにしている。

(5)GIGA スクール構想、タブレットの活用について

- ・学級の実態に応じて、ミライシードのドリルを活用した演習を行っている。
- ・調べ学習において、情報の正しさに気を付けながらインターネットを活用している。
- ・音声入力や手書き入力、ローマ字入力などを使って、文章を作成している。
- ・スライド機能を使って、発表用の資料を作成している。
- ・教員同士でジャムボードを利用して研究授業の協議会を行っている。

〈授業改善推進プラン 国語科〉

<p>1. 国語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">音読劇や役割音読など、教材の読み方を工夫することで、登場人物の感情や筆者の考えを読み取れる授業。漢字学習を常態化させず、変化をつけてみたり、遊びを混ぜてみたりして、より児童が意欲的に漢字を定着できる授業。物語文や説明文で、言語活動をさらに充実させることで、自分の考えや思いを伝えることができる授業。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <ul style="list-style-type: none">グループ学習の場では、学年内での関係性ができあがっているため、スムーズに話し合いを行うことができる。漢字検定に向けて意欲的な児童が多い。全体的に読書を好まず、また島内のコミュニケーションの範囲も狭いため、語彙力が乏しい。そのため、自分の考えを話したり書いたりする技能が低い。家庭学習に意欲的な家庭が少なく、漢字の予習・復習も十分に行えていないことがあり、定着率が低い。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none">読書を習慣的に行っている児童が少ないため、説明文においては筆者の考えを、物語文においては主人公の気持ちを思いながら読もうとする意識が低い。☆確かに宿題の提出率は高いが、集中して行っていないため、定着につながっていない。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none">漢字を読む・書く技能が低い。物語文・説明文を読み取る力が低い。自分の考えを書く力が低い。 <p style="text-align: right;"><small>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</small></p>

〈授業改善推進プラン 社会科〉

<p>1. 社会科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめることができる授業。社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することができる授業。社会科で学んだことを実生活で生かすことができるようになる授業。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <ul style="list-style-type: none">社会の授業には意欲的に取り組む児童が多い。しかし、自分たちの実生活に立ち戻り主体的に社会に関わっていこうとする児童は少ない。資料を読み取ったり、調査活動をしたりする基本的な技能は養われている。資料から読み取ったことや調査した内容を、自分の言葉で説明したり図やグラフなどを使ってまとめたりする力には課題がある。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none">課外での生活において、社会の出来事に関心をもって新聞を読んだりニュースを見たりしている児童は少ない。☆学校での授業には意欲的に取り組む児童が多い。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none">基本的な知識が定着していない児童が多い。必要な資料を判断して選ぶことができない児童が多い。資料から読み取ったことを適切に表現できない児童が多い。

〈授業改善推進プラン 算数科〉

<p>1. 算数科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における意味を理解することだけでなく、解決していく技能の習得をめざす授業。 ・課題に対して、解決していく過程での学びの活動が「楽しい」と思える授業。 ・自力解決の中で自分の考えをもち、自力解決から比較検討を通して、課題を楽しく解決できる授業。 	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習に意欲的に取り組めてはいるが、能力差があったり個々の意欲の向上が見られなかったりなど、全体としての達成にばらつきがある。 ・問題文を解答する際に、適切に題意を読み取って立式することに苦手意識がある。 ・学年が上がるにつれて、四則計算・四則と答えの大きさの関係など、既習事項を正しく理解することが出来ておらず、基礎・基本的な計算力を向上させるのに課題がある。 ・中、高学年では、複数の教員で授業を展開し、理解度の向上に努めている。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習において、翌日の授業の前に予習をしたり、当日の授業の後に復習したりする習慣のある児童は少ない。 ☆学校の授業においては、教師の話聞き、ノートをとっているが、理解につながっていない。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筆算などの計算式を、後から自分で見て分かるようにまとめることが出来ていない。 ☆図や表を書くときは定規を使って丁寧に書こうとしているが、正確に書くことは苦手である。

〈授業改善推進プラン 理科〉

<p>1. 理科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の結果が出て終わりではなく、そこからわかる事実を自分たちで見つけられる授業。 ・身近な生活や自然の中の不思議や疑問に感じたことから、自分たちで問題をつくり、解決しようとする事ができる授業。 ・理科の授業で学んだことを、実生活と結び付けられる授業。 	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年の児童も、理科の学習や自然事象への関心は高く、授業には意欲的に、観察や実験には楽しく取り組んでいる児童が多い。 ・問題に対する予想を考えたり、実証するための実験方法を考えたりする活動に意欲的に取り組み、自分なりの考えを確かめたいという高い意欲をもって学習に取り組んでいる。 ・実験や観察までは楽しいが、結果やそこから分かる考察を言葉で表現しようとする段階で、興味が薄れてしまったり、言語化を面倒がってしまったりする児童もいる。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校を離れた後、予習復習に自ら取り組んだり、自然や科学に関する本を読んだり、身近な自然について考えたり調べたりしている児童は少ない。 ☆理科の授業には意欲的に取り組み、観察や実験に楽しみながら取り組むことができている。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活用の力が基礎の力に比べて低い傾向がみられる。 ☆基礎的な内容はほぼ理解できているが、生命・地球分野に比べると物質・エネルギー分野のほうがやや苦手である。

